

たとえリセットされても

知つていまゆか？ 自分の「」

4年 A・Kさん

あなたはロボットが人間のすがたでかくれて住んでいる世界を想ぞうしたことがありますか？

主人公の愛は、四年生になるとともに転校してきました。実は愛はロボットでした。でも、愛は自分がロボットだということを知らずに人間だと思っています。そして、愛のお母さんは愛がロボットだと他人にばれてはいけないという使命をもっています。ですが、愛がちゃんとべきすきたため、愛をロボットどうたがう子がでてきてしまい、最後には愛がロボットだとばれてしまします。私がこのお話を読んで一番心にのこったことは、愛のお母さんに愛とその友達が、本当に愛がロボットなのかどうかをききにきて、お母さんがその真実を明かす場面です。さらに愛に前の年のきおくがなかったのは、お母さんが毎年愛のきおくをリセットしていったからでした。私はこの真実を知る前、愛が友達にどんどんにロボットだとうたがわれようと、愛はきっと人間でロボットではないと思っていました。けれども、真実が私の考え方と正対だったで、しようがきてきてどとおどろきました。私は、一回目に読んだ時に初めて気がついたことがあります。それは、愛のセリフに一言も気持ちを表す言葉が書かれていません。この本の中で愛の友達がないと言っていたので、愛のセリフをかくにんしながら読んでいてみたら、本当に愛のセリフには一言も気持ちを表す言葉がかかれていませんでした。私もこの本を読む前は愛の友達と同じ意見で、ロボットに気持ちはないと思っていました。でも、この本を読んで、ロボットにも少しは気持ちがあるのではないかという考え方へ変わりました。理由は最後の方のページのさし絵で愛が泣いている場面があつたからです。きっと愛は友達にたとえ愛がリセットされて自分達のことをわすれてしまったとしても、友達だからずっと覚えているよと言われしきてないでしまったのだと思います。

この本には書いていないけれど、愛はこの後もきっとリセットされてしまふのだと思います。でもそうなってしまっても、友達との深いきずなで、友達のことを覚えていてほしいです。

そして、題名にも「たとえリセットされても」最後まで愛のことを信じつづけてくれた友達をぜつたにわすれたくないという愛の強い気持ちがこめられていたのだと思います。